

国内最大級の自走式チップパー導入

765馬力で、時短生産を実現

日本フォレスト



天瀬工場に導入されたLB-4036。工場担当者の労働負荷軽減にもつながっている

モリシヨウグループ(大分県日田市、森山和浩社長)の日本フォレスト天瀬工場は今年、同グループのグリーン発電大分(GHO)に効率的に切削チップを供給するため、チップパーを国内最大級の大型自走式ドラムチップパー(765馬力)に更新した。モバーク(米国)製のLB-4036で、設備更新によりチップ生産能力は従来比2倍以上となる。工場担当者の労働負荷軽減にも寄与している。

GHOは掛けて同量を確保して発電出力5700kWだった。導入した大型チップパーは生産能力が60で、1日に80トあり、午前中の使用する未利用材チップ量は220ト。天瀬工場ではこれまでチップ生産能力30ト(時)の中型ドラムチップパーを使い1日

工場では余裕のでき、午後後の時間を別の業務に充てられるようになり、担当者も「工場全体の保守管理の時間を十分に取れるようになった」と歓迎する。チップパーを1日動かして次の営業日は休ませ

るなど、従来よりも柔軟なチップ生産と働き方を実現した。

LB-4036は調整可能なバビット式カウンターナイフを採用し、均一なチップを生産できる。ドラムとその周囲に耐摩耗鋼を使用、また稼働部品が少ないためメンテナンスを軽減できる。排出シユートの先端角度は遠隔操作で調整でき、迅速かつ楽にチップ搬送車を最大積載量まで満たせる。

最大処理径は610ミ。これまでのチップパーでは直接投入することが難しかった大径木やタンコロも、前処理なしに入れられる。各装置の作動状況を監視・制御するシステムを搭載しており、生産性とエンジン効率を最大限に発揮できる。

日本フォレストはオカダアイヨン(大阪市)を輸入元に、同社とログバスターシリーズの販売を手掛ける。同シリーズは小型自走式や中型自走式、同車載式、同電動式があり今回、5種類目として大型自走式を追加した。

同社との協力体制により、国内12カ所以上の窓口でアフターサポートを受けられる体制を整えている。

